平成 24 年度 第２回三原市市民協働推進委員会　概要

◇日時：平成 24 年 9 月 10 日（月）午後２時～午後４時 30 分
◇場所：中央公民館　第２・第３講座室
◇出席委員：12 名（欠席２名）

◇議事内容
１　開　会
２　協　議
（１）市民協働事業審査会委員の選出について・・・別紙１
（２）市民協働のまちづくりフォーラムの開催について・・・別紙２

◇主な意見（〇：委員の発言，●：事務局の発言）
（１）市民協働事業審査会委員の選出について（別紙１）
別紙１市民協働事業審査会委員の選出（案）のとおり，異議なしで決定した。

（２）市民協働のまちづくりフォーラムの開催について（別紙２）
〇：今までのフォーラムの基調講演，環境や自主防災にしても，最終的には地域の住民の活性化，コミュニケーションの徹底がベースになる。今回はターゲットを地域組織，住民組織に絞ってやれば良い。
〇：久井町は，小さな各組織はものすごくまとまりがある。久井全体でやろうとすると人が集まらないので，「広げよう」というのは良いと思った。小さな組織と組織をくっつけるような方向性に持っていけば地域活性化に繋がるのではないか。
〇：地域の絆というものに気付いて欲しい。行事が減って町民が集まることがなくなり，絆が薄れ，活性化していない。新しく町内会へ入る人も少なく，また，入っていても出てこない。
〇：絆を「広げる」というか，「守る」という感じ。守っても，ほどけていくような状況にある。
〇：フォーラムをするのに具体的なテーマであれば分かり易く来場者も集まるが，今度のテーマは絆とかコミュニティとか，抽象的。三原市では数年前に住民組織の改革案を作っていると思うが，住民組織をもっと活性化するとか計画を作ってもらうとかあるのなら，そちらを打ち出したほうがいいのではないか。
●：今年度，政策企画課が中山間地域の基本計画を作成する。委員が言われたのは地域協議会のことだと思うが，平成 25 年度から，それに近いようなモデル的な形を中山間地域で始めたいという話をしている。ただ，中山間地域にあたる久井町や大和町の人材だけでは今後のワークショップを行うにも人材不足の部分があるので，今回のフォーラムの参加者にワークショップへ参加してもらい，来年度からの中山間地域の計画にも携わってもらえるような人材を育成したい。今までもしてきたように，フォーラムのアンケートでワークショ

ップへの参加を希望するかを問い，希望した人に直接参加してもらって次年度へつなげていきたい。そういった流れの中で，「中山間地域活性化」と書くと沿岸部が入らないので，「地域活性化」というふうに書いた。地域活性化は全ての土台の部分になる。もっと早くこのテーマでフォーラムをするべきだったのだろうが，なかなか次につなげるチャンスがなかった。今回はそのチャンスなので，やろうと思っている。

○：後で質問しようかと思ったのだが，次に連続講座というのがあるが，中山間活性化事業とこれは両立して同じように進めるのか。連続講座のところに書いてあるワークショップと同じ日程で政策企画課のワークショップがあるのでは。

●：今言ったワークショップと，政策企画課のワークショップは同じものです。全５回のうち２回はフォーラムより早めに行うようになっているため，フォーラム参加者には３回目から加わってもらうようにしたい。このワークショップに，中山間地域の方だけでなくいろいろな人が参加する流れをフォーラムで作る。中山間地域の方針ではあるが，そこからスタートして，市内全域に広げていきたい。人材育成という意味でも，いろんな方に参加していただきたい。平成 25 年度の地域計画という話があったと思うが，それはおそらく地域ごとで作ってもらうようになると思う。とにかく人材が育成できないと，どの地域でもそういったことができないので，その流れを今回作りたいと思っている。

○：久井町と街中では地域性がそれぞれ違う。

●：地域の計画を作る時には地域の方に作ってもらわないといけないが，いろいろな地域の方が交わってもらうほうがいろいろな意見が出る。地域の方が入っているので，今までのルールから外れることはないと思う。活性化というのは，そこからひとつ先に行くときに，いろいろな人の話を聞きながら進めていくというのがあると思う。他の地域から来た者と合わせて計画を作るのはいかがなものかというご心配だと思うが，意見を出し合いながら久井地域にあったような計画を作っていくのが良いのではないかと思う。

○：テーマが「地域の活性化　広げよう　地域の絆」だが，逆にすれば，地域を活性化しなければならない現状がそれぞれの地域にあるということ。別紙２の概要は，下から逆に読んだほうが分かり易いと思う。まず地域の実態や住民ニーズを把握し，それぞれの地域で困っていることがある，課題がある，というのが出発で，そこから住民の主体的な取り組みを進めていこう，それをするためには住民や住民組織などの関係団体との連携が必要だろう，と。そして，地域の活性化を実施するためにはどうすれば良いんだろうかと思ったら，それは地域が主体的で個性的な魅力ある地域づくりや新たなコミュニティづくりを積極的に進める必要がある。こうして初めて地域の絆が広がって，活性化していくんだと読んだほうが良い。地域の活性化というものがいきなり出てきたものだと活力は出てこない。地域の実態やニーズの把握が一番のポイント。悪いところ探しをしてもやる気は出ない。それぞれの地域が持つ魅力や，元々持っている力，強さを再発見するところから始めないと，地域の活性化はできない。地域ごとの発表者案を見ると，それぞれの地域にいろいろなテーマがある。元々持っていたテーマがある。そこを活性化に繋げていこうという知恵が出てくると思う。そういう展開のほうが分かり易い。

○：中山間地域のリーダーを養成しようというのも，地域がそのムードにならないと人を出してくれない。三原市というのは難しく，合併をしてから地域ごとにものすごく温度差がある。これを一緒にするというのはなかなかできない。その中で，どこへ行っても，地域が弱っているという話を聞く。さきほど副会長が言われたように，何故弱っているのかというのを出していかないと，前へ進めない。今回は底辺に戻って，住民の取り組みなどについてフォーラムをするべきではないか。基礎的な部分へメスを入れないと何も進まない。自分の地域では町内会が弱っているので町内にある各種団体を集めて連絡協議会を立ち上げている。行事をそれぞれの団体に振り分けている。町内会だけではできない。

　また，最後のほうに出てきていたが，住民組織と市民活動団体というと今は全然違う。比較すると市民活動団体のほうが今はしっかり動いている。思いが同じ人が集まるので一つの方向性でうまくいくのだと思う。住民組織もそういった思いにさせていかなければいけないのだと思う。

●：三原・本郷地域は人数がいるので，住民組織と並行しながら市民活動団体がある程度頑張れるが，大和や久井は住民組織と市民活動団体がほぼイコールになっている。市から何らかの話がある時は，市民活動団体ではなく住民組織にするようになる。そういった違いがあるということを，皆が分からないといけないと思う。だからこそ中山間地域の活性化はみんなで頑張らないといけないし，市民活動団体があるところは応援に入ることもできるというのが，フォーラムの中でみんなに伝われば良いと思う。市から様々な話がいく久井などの住民組織代表者の方は大変だと思う。だからこそ中山間地域に力を入れていやっていかなければならないということになっているのだと思うし，市民活動団体と住民組織をうまくネットワーク化していくきっかけにしていただきたいという思いがある。

○：横の連携をどうしていくかということだと思う。久井町のように一つの小さな組織はまとまっていても大きな組織になると人が集まらないとか，そのあたりの問題をどうしていくか。まずは実情をみんなに知ってもらうことが大事ということでは。

●：フォーラムの事例発表者案として，三原では基礎住民組織，本郷では子育てをテーマとした市民活動団体，久井では住民組織と市民活動団体，大和では住民組織連合団体を挙げているが，それぞれ特性があると思う。それを話してもらいながら，コーディネーターや助言者が入り，それぞれの地域でどう活かしていくか，というのはフォーラムの中でできる。その後，具体的にどうしていくかについては，ワークショップに参加してみませんかと投げかける。また，市民活動団体向けには，活動を継続していくための講座を連続講座として開催したらどうかというのが，この全体の流れになっている。

○：フォーラムがその時限りのものにならないよう，どう次につなげていくかということだと思う。

○：地域の実情の話と，それを元にしたパネルディスカッションということで，持って行き方としても一応みなさん共通の認識ができたと思うが，既存の住民組織や地域の問題に関わる団体，市民活動団体やそういう方を中心とした住民というふうにターゲットが幅広くなる。何でもありというのは，テーマを見た時に，実際に自分自身が関係していると思える

かどうかが問題となるのでは。関係あると思わせるようなキャッチフレーズを考えなければならないと思う。例えば自主防災組織の関係者や核になれる地域の方に声をかけて，自分たちに関係があると思ってもらえて，来てもらえるような表現というか。

○：メディアはやはり表現がうまい。例えば「ご近所の底力」と言うと，何でも使えるような気がする。「魅力再発見わたしのまち」とか，柔らかくてつかめるようなものが良いのではないか。「広げよう　地域の絆」も大事だと思うが，そもそも絆とはなんだろうか，絆はあるが元気がないとか，何かしたいけどできないとか，そういうものをどう表現していくか。

○：そもそも何のために地域を守るのか，なぜ今のままではだめなのかというと，次の世代，子どもたちへ繋げていくためだと思う。このまま，現状のままで良いと思っている人もいると思うが，それでは次へ繋がらない。意識改革が必要だと思う。

○：昔は行事や清掃などがあってみんな出てきていたが，道路は舗装されて川も綺麗になって必要がなくなってきて，町内会へ入るメリットがないので人が入らなくなってしまった。

○：幸せを求めて進歩してきたんだろうけども一方で合理化されてしまった。こういった思いはあるが，なかなかテーマとして表現するのは難しい。

○：「地域」というよりは「近所」だと思う。三原地域だと隣が誰かも知らないところもある。「近所」が広がって「地域」になる。副会長が言われた住民のニーズの把握も重要なことだと思う。そういった言葉をテーマに持ってきてはどうか。

○：みなさんの話をまとめると，「どうしたい」というのが分かるように文言を少し変えるほうが良いということだと思う。例えば，「わがまち元気に」とか「まちづくりは人づくり」とか「みんなでつくるまちづくり」とか，これをしませんか，というような表現にちょっと変えていけばいいのではないか。

○：「地域活性化」と出されると，かたくて人が来ない。これだと，自分たちには関係ない，と取られかねない。対象者が絞られてしまうのではないか。

○：意見を言いながら考えるのは難しいので，それぞれみんな考えたテーマを書き出していってはどうか。

（委員が黒板に意見を書き出しながら話し合う）

テーマ：おしい！三原　～つなげよう　ご近所の輪～

・すでに絆はあるが，それがつながっていっていない部分が「おしい」
・ひとつひとつ小さな地域や絆をつなげていこうという意味では「広げよう」より「つなげよう」が良いのではないか

などの意見から，テーマを決定。

○：フォーラムの開催形態をパターン１にするか，パターン２にするか。今の話を聞いていると，パターン２のような気がする。

○：パターン２でいいと思うが，各団体の事例発表時間が短いのではないか。１団体が 10 分でどこまで話せるか。15 分でも厳しいくらいではないか。パネルディスカッションも，団体

がうまく話したとしても，コーディネーターや助言者が発言する時間も考えるとかなり厳しい。もうひとつは，パネルディスカッションとなると壇上の話を聞くだけになる参加者がどんな成果を持って帰られるかが気がかり。

〇：パネルディスカッションで，⑤市外の方が上げられているが，この方の話は基調講演で話すくらいの時間がないと内容が分からないと思う。それならば⑤を削り，市内の方だけにすれば１団体 15 分に増やせるのではないか。また，アドバイス講座としてわざわざ時間を取らなくても，パネルディスカッションの中でコーディネーターが話せば良いのではないか。そうすれば事例発表が 60 分，パネルディスカッションを 80 分にして，参加者にも成果を持って帰ってもらえるのではないか。

〇：参加者との質疑応答をしたいが，やると時間がなくなる。

〇：以前のフォーラムでやったように，事前に質問用紙を配布しておいてやればいいのではないか。

〇：参加者がただお客さんとして聞いて帰るのではなくて，参加型の工夫ができればほしい。

●：今回，パターン２の場合はコーディネーターに薦田さんをお願いしようと思い，事前に一度話をしている。環境がテーマのフォーラムでコーディネーターをお願いしたことがあり，三原のこともよく知っている。会場を巻き込むような話の仕方ができると思う。薦田さんと話をした際に，助言者に来て欲しいという話で，中村委員にお願いしたいということだった。

〇：中山間地域活性化に関するＰＲを最後にするようになっているが，これを事例発表の後にして，その間に事前に配布した質問用紙を回収し，パネルディスカッションの中で薦田さんがそれぞれの方に回答するような形にすれば，会場の人も参加できるのではないか。

〇：住民組織代表者など最初から動員をかけることが分かっている方には，事前に質問用紙を配布してはどうか。地域のトップの方の意見を出してもらうほうが良いと思う。

●：それでは，事例発表を４団体それぞれ 15 分ずつ行い，中山間地域活性化事業のＰＲをし，その間に質問用紙を回収。その後，パネルディスカッションを 80 分行う。質問用紙については，事前に配布することができる方法があれば検討する，ということでよろしいか。コーディネーターと助言者についてはまた，個別に詰める。パネルディスカッションの時間についてもコーディネーターと相談をする。

〇：事例発表だと，地域の会長しか来ないのではないか。基調講演でもあれば他の人も来る気になるだろうが。

●：学術的な話をするか，実践的な話をするかというところで，実際の地域に根ざした話を今回はしてもらう。学術的な話はなかなか難しい。地域に持って帰ってもらうためには，事例を聞いてもらうのが良いのではないかという思いで今回このようにしている。

〇：事例発表する前に，30 分ほど，コーディネーターの薦田さんに，協働の必要性について基本的な共通認識を持ち，地域活性化するためにこういった事例を行ってきている，という話は，しておいてもらったほうが良いのでは。こういう話を今からする，という話をして，みんなが勉強する構えを作ってもらって，事例を発表するほうが，聞くほうも分かり易い

と思う。

●：２時間半の予定を，３時間程度にするということか。

○：内容はどうあれ基調講演というものがあったほうが良い。

●：時間的なものと，その時間でどれだけの話ができるかということがあると思うので，また話しながら詰めていきたいと思う。

●：連続講座について，前回出した資料とほぼ変わっていないが，先ほど説明したとおり政策企画課のワークショップが中山間地域・住民組織についてのものなので，連続講座に関しては市民活動団体向けになっている。また，４回目については２年前に行ったが昨年度行わなかった，みはらし環境会議の報告会と，市民提案型協働事業の発表会を行いたいと思っている。何かまたご意見があればいただきたい。

また，フォーラムまでのスケジュールについて，チラシ・ポスターを 10/10 に納品してもらい 10/15 付けの住民組織回覧へ封入したいと考えているので，原稿の〆切が 10/3,4 になる。次回の協働推進委員会を 10/2 に予定しているため，原稿をある程度手直しした時点で委員のみなさんに郵送させていただき，事前に修正箇所や思いなど，ご意見をいただきたいと思う。